

カヌーで、

クルマ
愛車で、

川根本町を駆け巡る——

第19回リバーレイド開催

「環境体感スポーツ」 7年ぶりに町内で開催

カヌーや自動車に乗ってさまざまな競技に挑む環境体感スポーツ「リバーレイド」が、10月1日から翌2日までの日程で、八木キャンプ場（奥泉区）を拠点に町内各地で開催されました。

リバーレイドは、平成6年に新潟県で始まり、その2年後には旧本川根町で初開催されました。町内開催としては平成21年以來7年ぶりの開催となる今回は、町内外から約1000人が参加しました。

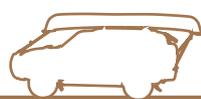
開会式では、大会名誉顧問を務める鈴木町長が「またここで大会が開催されることをうれしく思う。雄大な自然を大いに満喫してほしい」とあいさつしました。参加者は4人で参加する「リバーレイドクラス」とカヌー以外の競技に2人以上で参加する「ピジタークラス」に分かれて、周辺林道での自動車タイムトライアル、接岨湖カヌー競技場や大井川でのカヌーを使った競技など、2日間で10種目の合計得点を競いました。



リバーレイドは・・・

「人とクルマと自然の共生」がテーマ

- ① 2～4人1組で参加する環境体感スポーツ
- ② 1泊2日で行われるキャンプスタイルラリー
- ③ 「ゲーム」を通じて環境保全と生物多様性を体感





大会 フォト レポート

①スタート前の「車検」に合格すると、大会への参加が許可される／②悪路を走破するクルマにくぎ付け／③鈴木町長が大会スタートの旗を振った／④正確さと速さが求められる「タイヤ交換」レース／⑤距離と記号のみの簡単なコマ図だけを頼りにクルマを走らせる／⑥町内のスタッフがカヌー競技の運営を担当した／⑦白熱の「カヌー玉入れ」／⑧息を合わせてオールをこぐ「カヌー綱引き」／⑨水槽に見立てたカヌー内で泳ぐアマゴを川へ放流するチェックポイント



ビジタークラス優勝
チーム
「MONSTER」
(会から)
佐藤 健一 さん
かおり さん



リバーレイドクラス優勝
チーム「e=mc²-1」
(会から)大島 一 さん
高橋 勉 さん
大津 聡 さん
松原 美樹 さん

「藤枝市から夫婦で参加しました。初出場でいきなり優勝でき、びっくりしています」(かおりさん)。「印象に残った競技は『タイヤ交換』。ガソリンスタンドでのアルバイト経験が生かせました。次回までにあと2人集めて、ぜひカヌー競技にも参加してみたいです」(健一さん)。

「熊本県や神奈川県など居住地はバラバラですが、バイクやカヌーという共通の趣味を持つ仲間たちで挑戦しました。接岨湖でのカヌーの『ロングレース』はとても疲れたけど楽しかったです。今回は、メンバーそれぞれで別チームを作って、競い合ってみてくださいね」(松原さん)。

これは「人(クルマ)と自然」という構図だけでなく、「人と人」という関係においても同じです。例えば、今大会でも各地からの参加者を地元の皆さんは温かく迎えてくれましたし、大自然のもと、参加者同士でも世代を超えたふれあいが見所で見られました。

リバーレイドは、このテーマをもって地域の活性化を図るための、壮大な実験場でもあります。だからこそ、より多くの地元の皆さんとともに、その可能性を探求していければと考えています。

「人とクルマと自然の共生」
リバーレイドは壮大な実験場

まずは、地元住民の方をはじめとする大会スタッフに感謝です。皆さん一人一人の尽力がなくては、今大会を成功させることができませんでした。

リバーレイドのテーマは「人とクルマと自然の共生」です。私は今まで、全国各地にある数々の河川流域を訪れました。その中でも、ここ奥大井ほど、その実現に近い地域はないのではと思っています。

大会トータルプロデューサー
(リバーレイド発案者)



自動車環境探求家
横田 紀一郎 さん

